うになりて。道を尋得ておの〳〵歸りけり。それより後此蕈を。舞蕈（まひたけ）といふなりとなん。かたりつたへたるとなり

○明治十五年ニ東京デ近藤圭造氏ノ出版シタ活字版ノ『今昔物語集』（表紙ノ表題ハ單ニ今昔物語トアル）ガアルガ此レニハ左ノ如キ文章デ出テ居ル、今昔物語ハ種々ノ寫本デ傳ハッテ居ッタノデ其文章モ一樣デナイ樣デアル

尼共入山食茸舞語第廿八

今昔京に有ける木伐人共數北山に行たりけるに道を蹈違て何方へ可行しとも不思えさりけれは四五人許山の中に居て歎ける程に山奥の方より人數來けれは怖く何者の來るにか有らむと思ける程に尼君共の四五人許極く舞ひ乙て出來たりけれは木伐人共此れを見て恐ち怖れて此の尼共の此く舞ひ乙て來るは定めてよも人には非し天狗にや有らむ〻鬼神にや有らむとなむ思て見居たるに此の舞ふ尼共此の木伐人共を見付て只寄に寄來れは木伐人共極く怖しとは思ひ乍ら尼共の寄來たるに此は何なる尼君達の此くは舞ひ乙て深き山の奥よりは出給たるそと問ひけれは尼共の云く己等か此く舞ひ乙て來ては其達定めて恐れ思らむ但し我等は其々に有る尼共也花を摘て佛に奉らむと思て朋なひて入たりつるか道を蹈み違へて可出き樣も不思て有つる程に茸の有つるを見付て物の欲きまゝに此れを取て食たらむ醉やせむつらむとは思ひ乍ら餓て死なむよりは去來此れ取て食むと思て其を取て燒て食つるに極く甘かりつれは賢き事也と思て食つるより只此く不心す被舞る也心にも糸怖しき事かなとは思へとも糸怖くなむと云に木伐人共此れを聞て奇異く思ふ事无限し然て木□人共も極く物の欲かりけれは尼共食殘して取て多く持ける其の茸を死なむよりは去來此の茸乞て食むと思て乞て食ける後より〻木伐人共も不心す被舞けり然れは尼共も木伐人共も互に舞つゝけて咲ける然て暫く有けれは醉の悟たるか如くして道も不思て各返にけり其れより後此の茸をは舞茸と云ふ也けり此れを思ふに極て怪き事也近來も其の舞茸有れとも此れを食ふ人必す不舞す此れ極て不審き事也となむ語り傳へたるとや

○亞弗利加喜望峰ヨリノ萬年菊

牧野富太郎

先ニ横濱市ノ友人久内清孝君ヨリ Everlastings ノ一種ヲ落手シタ是レハ大阪商船株式會社ノ汽船「シアトル」丸ノ事務長小石昌範君ガ南米カラノ歸途亞弗利加南端ノ喜望峰デ買ヒ求メ携ヘ來ッタモノデアッテ装飾品トナシタ一ノ乾花デアル此ノ如ク乾イテモ何時マデモ其原形ヲ保ッテ居ルモノヲ Everlastings ト稱スルガ私ハ今之レヲ萬年花或ハ萬年草ト譯シタ此萬年花或ハ萬年草ニハ種々ノ種類ガアッテ彼ノむぎわらぎく（今日世人ハ之レヲ貝細工ト誤稱シテ居ルガ貝細工ト云フ植物ハ別ニアル、本誌ノ第一巻第一號ニ之レヲ辯ジテ置イタ）、かいざいく、こばんさう（たわらむぎ）、せんにちかう、しらたまほしくさナド皆

亞弗利加喜望峰ヨリノ萬年菊

亞弗利加喜望峰ヨリノ萬年花　×$\frac{3}{5}$　(吉浦祐全君撮影)

此萬年花トスルコトガ出來ル、右ノ小石君ノ携帶セラレタル萬年花ハ大形デ純白デ非常ニ立派ナモノデアル即チ上ノ寫眞ガ其レデアル中ニ紫色ノモノト青色ノモノトガアルガ是レハ人工デ染色シタモノデアル　●此植物ハ多分むぎわらぎくト同屬ノ Helichrysum vestitum LESS. デアラウト思フ其植物ハ他ノ澤山ノ同屬ノ品ト同ジク喜望峰地方ノ特産デアッテ小キ灌木狀ヲナシきく科ニ屬スル今左ニ其形狀ヲ紹介シヨウ　●Helichrysum vestitum LESS. ハ下部ハ灌木質、上部ハ亞灌木質デアル、莖ノ高サハ一二尺許モアッテ粗大デ密ニ葉ヲ有スル、枝ハ長短一樣デナク且瘦セ長ク立チテ疎ニ葉ヲ着ケル、莖並ニ葉ハ白色デ織リ成シタ樣ナ綿毛デ甚ダ厚ク包ンデ居ル、葉ハ長楕圓形或ハ線狀長楕圓形或ハ舌狀デ約二寸內外ノ長サト四分乃至八分許ノ幅トヲ有シ葉頭ハ黑色ノ微尖頭ヲ呈スル、上部ノ葉ハ細小トナッテ遂ニハ頗ル細キ苞狀ニ變

ジテ居ル最上部ノモノハ透明ナル白膜質ノ一鱗片ヲ其頂ニ有スル、頭狀花ハ大形デ八分程ノ徑ガアル、花梗ノ頂ニ生ジテ或ハ獨在シ或ハ聚在シ各頭狀花ハ極メテ多數ノ小花カラ成ッテ居ル、總苞ハ球形放射狀デ毛ナク光澤ガアル、總苞片ハ雪白デ多列ヲナシ緩ク覆瓦襞ヲ呈スル總テ披針形デ鋭尖頭ヲ有スル、花床ハ鋭尖ナル鱗狀ノ總狀毛デ被ハレ其毛ハ子房ヨリ長イ、冠毛ハ基部合體シ微々糙澀スル、本品ハ喜望峰地方ノリートヴハレー、ドラーケンスタインベルグ、ケープタウン附近、ウォルケスター、ケールドンホットホルランド、シモンスベー並ニツワルテベルグニ生ズル

○泰西ノ植物學ヲ始メテ極東ノ我ガ日本ニ入レシ『菩多尼訶經』

牧野富太郎

宇田川榕菴 (富士川遊氏著日本醫學史ニ據ル)

『菩多尼訶經』ハ「ボタニカ經(キヤウ)」ト訓(ヨ)ム、ソハ著者宇田川榕菴ガ泰西ノ植物學即チBotanica(ボタニカ) (Botany) ヲ經文ニ擬シテ作リ之ヲ折本ノ小冊子トナシ其レヲ一般ニ東方ノ我邦人ニ讀マセ以テ泰西植物學ノ梗概ヲ知ラシメント企テタノデアル今之ヲ特ニ經文體ニ作リシコト蓋シ假令其「ボタニカ」ノ語ノ何トナク佛語メキ居ルヨリ思ヒ附イタデアラウト思ハル、ニモセヨ兎モ角モ讀經式ノ文體ト作シ日夕之ヲ一般ノ國人ニ諷誦セシメントセシ其用意ハ甚ダ珍妙デ頗ル奇想ヲ弄シタモノデアルト謂ハネバナラナイ加之(シカノミナラズ)此書ガ我日本帝國ニ向ッテ始メテ泰西ノ純正植物學ヲ輸入宣傳セシモノデアルト知ッテハ吾人ハ尚一層之ヲ珍重セネバナルマイト思フト同時ニ一方亦其著者ニ對シテ此ニ尊敬ノ念ヲ捧ゲネバナラヌコトヲ深